科目名	情報科学			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Information Processing			総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	通年	曜　日	木	時　限	3･4

担当教員	永野　千恵美	実務者経験	1986年よりコンピュータ関係のインストラクタとして従事 1990年より、大学・専門学校・高校にて情報処理関係の講師として勤務

学習内容	コンピュータの基本操作、ITリテラシーの習得
到達目標	Wordによる各種文書作成、Excelによる表計算・グラフ作成・データベースなどの作成活用できるレベルへの到達

準備学習 時間外学習	授業内容の復習
使用教材	「繰り返して慣れる！Office演習ドリル　全489題」
留意点 備　考	継続してデータを使用するため作成データの保存を必ず行う事

成績評価	筆記40%　実技60%

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	オリエンテーション	PC・OS基本操作、文字入力
2	ビジネス文書	文書作成、基本的なビジネス文書（社外・社内文書）
3	表作成	表作成
4	表入り文書	表入り文書の作成
5	オブジェクトの扱い	ワードアート、クリップアート、図形
6	図入り文書作成	ワードアート、クリップアート、図形などを取り入れた文書作成
7	復習	ドリル
8	Wordテスト	Word知識・実技試験
9	Excel概要 基本操作	データ入力、書式設定
10	計算式	四則演算、関数
11	計算式	様々な関数
12	グラフ作成	様々なグラフ作成、編集
13	グラフ作成	様々なグラフ作成、編集
14	データベース	データの並べ替え、抽出
15	復習	ドリル
16	Excelテスト	Excel知識・実技試験

科目名	保健・体育学Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Health & Physical Education			総時間数	32	単　位	2
学　年	2	学　期	通年	曜　日	木	時　限	3･4

担当教員	澁谷　和久	実務者経験	1992年～2002年　フィットネスクラブでフィットネスインストラクターとして指導を行う。2003年からスピードトレーニングコーチとして各種アスリートの指導を行う。

学習内容	就職試験において必要な体力要素の向上
到達目標	筋力、筋持久力、種発力、敏捷性、平衡性において20歳の上位の体力を目指す

準備学習 時間外学習	体調管理、復習トレーニング
使用教材	トレーニングマシン各種、マット、ダンベル、バランスボール
留意点 備　考	目的、注意点、予想される効果を把握する。

成績評価	前期、後期の体力テストで評価

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	ガイダンス 概要説明	測定に必要な胆力要素、体力要素別トレーニング方法
2	筋力、筋持久力	トレーニング効果の獲得速度、最大筋力、ピークパワーの発揮
3	瞬発力、敏捷性	最大筋パワー、プライオメトリック、クイックネストレーニング
4	前期テスト	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力
5	測定結果からの 目標設定	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力
6	全身持久力 筋持久力	ＬＴ値サーキットトレーニング
7	最大筋パワー ミドルパワー	リニアサーキット、ドットドリル、ハピング、バウンディング
8	後期テスト	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力

科目名	接遇と安全管理			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Reception & Service			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日		時　限	3･4

担当教員	平田　誠 森本　幸夫	実務者経験	病院救命士として15年の臨床経験（救急救命士） 消防経験40年勤務ののち東洋医療学校で教員として7年、病院救命士指導顧問として現在に至る（救急救命士）

学習内容	傷病者、家族に対する接遇要領、安全管理について、ストレスマネージメントについて、テキストを通して学習する。
到達目標	救急救命士として傷病者やその家族と接する時の接遇とはどういうものかを理解できる 救急救命士自身、また傷病者の安全管理が行えるよう理解することができる 救急救命士自身のストレスマネージメントとはどういうことか理解できる

準備学習 時間外学習	講義内容の復習を行う。
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	自己紹介	■他者に情報を適切に伝達するということを意識した自己紹介 (声の大きさや態度、話し方を意識する)
2	救急救命士と傷病者との関係	■傷病者とのコミュニケーションの技法と初期対応について ■安心につながる対応、精神的援助、死者その家族とのかかわり ■インフォームドコンセントと生前意思表示について
3	安全管理	■安全管理とリスクマネージメント ■傷病者の安全管理（転倒・転落防止、チューブ・カテーテル類管理、誤嚥防止、感染予防） ■救急隊員の安全管理（業務上の事故、感染防御）
4	フィジカルアセスメント	■フィジカルアセスメント（呼吸・循環・意識・腹部）の理解
5	ストレスに対するマネージメント	■救急活動でのストレス（ストレスの意味、対応、ＰＴＳＤについて） ■救急活動でのストレス対応（ＰＴＳＤに対するケア、環境整備）
6	トリアージ学習	■トリアージの基礎の理解 ■トリアージペーパー演習
7	まとめ	全体を通しての復習(重要事項の再確認)
8	終講義試験	

科目名	心肺停止			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Cardio-Pulmonary Arrest			総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	心肺停止の概念、病態について理解し、救急蘇生法の最新のガイドラインを学習することで、救急活動におけるプロトコールを理解、習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心肺停止総論	・定義、概念、疫学についての最新資料　・救急活動基準に記載されている心肺停止に関する定義　・早期、晩期死体現象（死後変化）　・ウツタイン様式について説明。
2	心肺停止に至る病態と原因	・不整脈、低心拍出量　・心臓振盪について
3	心肺停止に至る病態と原因	・呼吸不全　・乳幼児突然死症候群に関する知見　・脳障害、急性中毒、電解質異常、電撃症など
4	心肺停止に至る病態と原因	・生体酸素状況　・主な原因疾患について（5H5T）　・心電図分類
5	心肺蘇生中の病態	・胸骨圧迫による循環発生の機序　・心肺蘇生中の冠循環と脳循環
6	心肺蘇生中の病態	・心肺蘇生中の呼吸循環（呼気終末二酸化炭素分圧の重要性　・胸骨圧迫の効果に影響する因子（血管収縮薬、陽圧換気など）
7	心拍再開後の病態	・虚血　・再灌流障害　・循環、神経機能の回復過程
8	心拍再開後の病態	・心拍再開後の経過に影響する因子（酸素、二酸化炭素、体温、血糖、痙攣など） ・ガイドライン2015記載内容
9	救急蘇生法	・蘇生ガイドラインの歴史　・蘇生ガイドラインの成り立ち　・AHA、ERC、JRC
10	蘇生ガイドライン	・一次救命処置（市民用）　・ガイドライン2015
11	救急隊員による一次救命処置	・一次救命処置（医療用）　・ガイドライン2015　・市民による一次救命処置についても講義
12	心肺蘇生に関する病院前救護のプロトコール	・病院前救護の心肺蘇生に関するプロトコール　・心停止アルゴリズム　・心肺機能停止対応業務ムロトコール　・包括的指示下除細動プロトコール　・器具を用いた気道確保プロトコール　・薬剤投与プロトコール　・VF/無脈性VTへの対応　・無脈静電気活動/心静止への対応

13	医療機関での治療	・二次救命処置　・特殊な二次救命処置（PCPS、開胸式心マッサージ）　・心拍再開後の集中治療
14	小児の救急蘇生法・乳児の救急蘇生法	・ガイドライン2015の内容も合わせて
15	まとめ	・最近の国家試験問題ほか

科目名	ショック・循環不全			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Shock・Circulatory Failure			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	心不全・ショックについて、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	循環系の解剖･生理など既習の分野を復習する。テキストの用語の読み方や意味を調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト　11版
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心不全	総論 病態生理
2	心不全	症候、種類、慢性心不全の急性増悪、現場活動
3	ショック	総論
4	ショック	循環血液量減少性ショック（１）
5	ショック	循環血液量減少性ショック（２）
6	ショック	心原性ショック 心外閉塞・拘束性ショック
7	ショック	血液分布異常性ショック
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	32	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	重症脳障害・意識障害について、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	中枢神経系の解剖･生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト　第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	重症脳障害	総論・発症機序 一次性脳病変と二次性脳病変
2	重症脳障害	頭蓋内圧亢進
3	重症脳障害	脳ヘルニア
4	重症脳障害	特殊な意識障害
5	意識障害	意識障害の原因
6	意識障害	随伴症候
7	意識障害	意識障害の判断と現場活動
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	救急症候学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Symptomatology			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	各種救急疾患でみられる症候を学習
到達目標	各種救急症候について、その機序・病態生理を理解し、観察法・評価法について理解し、適切な処置につなげられるようにする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	呼吸不全・呼吸困難	・呼吸不全の概念と病態生理　・分類
2	呼吸不全・呼吸困難	・原因疾患と重症度緊急度の判断　・処置
3	頭痛・痙攣	・発症機序と分類　・原因疾患と随伴症候
4	頭痛・痙攣	・重症度緊急度の判断　・処置
5	運動麻痺	・病態生理と分類　・原因疾患と随伴症候
6	運動麻痺	・重症度緊急度の判断　・現場活動
7	めまい	・発症機序と分類　・原因疾患と随伴症候
8	めまい	・重症度緊急度の判断　・現場活動
9	喀血	・定義と分類　・原因疾患と随伴症候
10	喀血	・重症度緊急度の判断　・現場活動
11	吐下血	・定義と概念　・原因疾患と随伴症候
12	吐下血	・重症度緊急度の判断　・現場活動
13	失神	・定義と概念　・原因疾患と随伴症候
14	失神	・重症度緊急度の判断　・現場活動
15	胸痛・動悸	・定義と発症機序　・原因疾患と随伴症候
16	胸痛・動悸	・重症度緊急度の判断　・現場活動

17	腹痛	・発症機序　・原因疾患と随伴症候
18	腹痛	・重症度緊急度の判断　・現場活動
19	腰痛・背部痛	・定義と概念　・原因疾患と随伴症候
20	腰痛・背部痛	・重症度緊急度の判断　・現場活動
21	体温上昇	・定義と発症機序　・原因疾患と随伴症候
22	体温上昇	・重症度緊急度の判断　・現場活動
23	まとめ	まとめと試験

科目名	疾病救急医学Ⅰ(神経系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Neural Diseases			総時間数	18	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①神経系の構造と機能を理解する。②神経系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな神経系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな神経系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	神経系の解剖･生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論（１）	中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、脳の血管 疫学と救急医療における意義
2	総論（２）	神経系疾患の主要症候 基本的対応
3	脳血管障害（１）	脳血管障害の概要 くも膜下出血
4	脳血管障害（２）	脳出血
5	脳血管障害（３）	脳梗塞、一過性脳虚血発作 脳動静脈奇形、もやもや病
6	中枢神経系の感染症	髄膜炎、脳炎、脳膿瘍
7	その他の中枢神経疾患	てんかん、脳腫瘍
8	その他の中枢神経疾患 末梢神経疾患	変性疾患、脱髄疾患 ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチー
9	まとめと補足 テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅰ(感覚器口腔系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Sensory & Oral Diseases			総時間数	14	単　位	神経系と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	3.4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	感覚器口腔分野の解剖を理解したうえで主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な感覚器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	毎回の講義後、復習をしておく
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	眼の主要症候と救急疾患	眼科領域の解剖 視覚障害と各眼科的救急疾患の理解を深める
2	〃	急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜剥離、結膜炎･角膜炎、白内障、視神経炎
3	耳鼻咽喉科	聴覚器の解剖
4	〃	末梢性めまい、炎症(中耳炎、鼓膜穿孔) 鼻の疾患(鼻出血、急性副鼻腔炎)
5	顎･口腔の解剖および、代表疾患	歯･口腔系の構造を理解した上で、疾患について理解する。 救急現場おける対処法について理解する。
6	口腔外科学および、口腔外傷対処法	〃
7	試験	

科目名	疾病救急医学Ⅱ(呼吸器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Respiratory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①呼吸器系の構造と機能を理解する。②呼吸障害について観察して評価できる。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな呼吸器系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな呼吸器系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	呼吸系の解剖･生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。　受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	疾患の理解に必要な 基礎知識	呼吸系の構造と機能、疾病の背景因子 換気、ガス交換、血液による酸素運搬
2	呼吸についての 病態生理	酸素欠乏、換気の障害(気道と呼吸運動)、ガス交換の障害(肺胞と肺間質)、 酸素運搬の障害(ヘモグロビンと血流)、酸素利用の障害
3	呼吸器系疾患の 観察と判断	疫学、観察、症状、重症度と緊急度、 応急処置と搬送、医療機関の選定
4	上気道の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
5	下気道と肺胞の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
6	感染症	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
7	胸膜疾患 その他の呼吸系疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
8	まとめ と テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅱ(循環器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Circulatory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①循環系の構造と機能を理解する。②循環系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな循環系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな循環系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	解剖･生理など既習の関連分野を復習する。　テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト　第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	循環系の構造、心周期、ポンプ機能 疫学、主要症候、基本的対応
2	動脈硬化 心不全 高血圧	動脈硬化の概念と病態 心不全の病態生理と症候 高血圧症、高血圧緊急症
3	血管疾患	急性大動脈解離、大動脈瘤、 急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症 深部静脈血栓症
4	虚血性心疾患	概念、急性冠症候群、急性心筋梗塞、 不安定狭心症、安定狭心症
5	心筋疾患 心膜疾患 その他の心疾患	心筋症、心筋炎 心タンポナーデ、急性心膜炎 心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患
6	心電図の解読	心電図の基礎 頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、その他の不整脈 心筋の虚血性変化、その他の心電図異常
7	不整脈	不整脈とは、心臓突然死、心室細動、心室頻拍、 心房細動、洞頻脈、房室ブロック、 ＱＴ延長症候群、ＷＰＷ症候群
8	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅲ(消化器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Digestive Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金	時　限	3･4

担当教員	谷村　博久	実務者経験	1986年から大阪大学医学部第一内科勤務、1990年から大阪警察病院内科勤務、2003年から大阪回生病院内科勤務、現在、副院長、内科統括部長、消化器センター長兼務。

学習内容	消化器疾患の基礎および多彩な臓器の多彩な病態を学んで理解する。
到達目標	消化器疾患の基礎を学び、ある程度の疾患の鑑別および重症度の判断ができるようになり、臨床の場に応用できるレベルになる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	試験にて評価する

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	消化器疾患について
2	総論	症候について
3	消化器系疾患	上部消化管疾患について
4	消化器系疾患	下部消化管疾患について
5	消化器系疾患	肝疾患について
6	消化器系疾患	胆膵疾患について
7	まとめ	まとめ、復習
8	試験	試験

科目名	疾病救急医学Ⅲ(泌尿生殖器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Uro-Genital Diseases			総時間数	10	単　位	消化器疾患と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金	時　限	3･4

担当教員	辻畑　正雄	実務者経験	医師、大学病院、市中病院等で30年泌尿器科で診療・治療に携わる

学習内容	
到達目標	泌尿器・男性生殖器領域の解剖・生理について理解し、同領域における救急疾患を中心に学習する

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）　　スライドなど
留意点 備　考	

成績評価	試験を行う

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	泌尿器、生殖器の 解剖生理	泌尿器・男性生殖器の解剖および生理
2	泌尿器疾患	腎不全および尿路結石症について
3	泌尿器生殖器疾患	前立腺肥大症、尿路感染症、尿路性器癌
4	泌尿器の外傷	救急外傷について
5	試験	試験

科目名	疾病救急医学Ⅳ(内分泌代謝栄養系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Humoral,Metabolic & Nutritious Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①内分泌系の構造と機能を理解する。②内分泌･代謝･栄養系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。 ④おもな内分泌･代謝･栄養系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな内分泌･代謝･栄養系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	解剖･生理など既習の関連分野を復習する。　テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	内分泌系疾患	内分泌系の解剖生理学 代謝・内分泌・栄養系疾患の総論
2	内分泌系疾患	内分泌系疾患
3	栄養障害	栄養、栄養障害、低栄養･飢餓、肥満･栄養過多、 ビタミン欠乏、ビタミン過剰
4	糖尿病	病態、分類、合併症、治療
5	糖尿病の関連病態	低血糖 糖尿病ケトアシドーシス 高浸透圧高血糖症候群
6	代謝障害	糖質代謝の障害、脂質代謝の異常、 蛋白質代謝の異常
7	水・電解質の異常 酸塩基平衡の異常	体液の異常、脱水、水分過剰 電解質の異常 酸塩基平衡の異常
8	まとめ と テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅳ(血液免疫系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Blood & Immune Diseases			総時間数	16	単 位	内分泌代謝栄養系と合わせて1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月	時 限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	血液･体液の解剖と生理を理解した上で血液免疫疾患の症状･評価･鑑別･救急処置などを学ぶ。
到達目標	血液免疫疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる様になる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ･内容･目標】	
1	**血液免疫総論**	救急医療における意義、血液･免疫系疾患の主要症候
2	〃	1)出血傾向/2)リンパ節腫脹/3)肝脾腫、緊急度･重症度の判断、応急処置と搬送、医療機関選定
3	**血液各論**	貧血、血小板減少症、白血病、血友病、紫斑病、播種性血管内凝固症候群(DIC)
4	〃	顆粒球減少症、止血に影響を与える薬剤(経口抗凝固薬/2)抗血小板薬)
5	**免疫各論**	1.アナフイラキシー、1)定義･概念/2)疫学/3)原因/4)病態/5)症候/6)現場活動/7)医療機関での診療/8)予後
6	〃	2.アレルギー性疾患、1)薬物アレルギー/2)食物アレルギー/3)血清病 3.自己免疫疾患、4.膠原病
7	**まとめ、演習**	重要事項の再確認
8	**テスト**	

科目名	疾病救急医学Ⅴ(筋骨格・皮膚系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Musculo-Skeletal Diseases･Skin Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	4

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得、2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	筋・骨格系の解剖・生理と筋骨格系疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。 皮膚の構造と機能と皮膚疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。
到達目標	筋・骨格系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。 皮膚系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	筋骨格系疾患１	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
2	筋骨格系疾患２	脊椎疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	筋骨格系疾患３	関節疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	筋骨格系疾患４	筋疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	皮膚系疾患１	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
6	皮膚系疾患２	皮膚・軟部組織の感染症　の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
7	皮膚系疾患３	皮膚アレルギー疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
8	終講義試験	

科目名	一般外傷			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Trauma			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	通年	曜　日	火土	時　限	3･4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	各外傷についての受傷機転、発生機序、病態、症状、評価・鑑別、予後や救急処置・搬送方法等について理解できる。
到達目標	外傷の受傷機転別に受傷形態、外傷分類、病態生理を理解することで外傷の現場活動のポイントを整理する。 各種外傷（頭部外傷、顔面頸部外傷、脊椎脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、皮膚軟部組織外傷、小児高齢者妊婦の外傷）別に、疫学、受傷機転、病態生理、現場活動における注意点につき学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
2	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
3	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
4	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
5	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の生体反応につき学習する。
6	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点・注意点につき学習する。
7	外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点
8	外傷の現場活動	・注意点につき学習する。
9	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
10	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
11	顔面・頸部外傷	顔面・頸部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
12	まとめ・試験	まとめ（国家試験問題他）と終講義試験
13	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
14	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
15	胸部外傷	胸部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
16	胸部外傷	胸部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。

17	腹部外傷	腹部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
18	腹部外傷	腹部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
19	骨盤外傷	骨盤外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
20	骨盤外傷	骨盤外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
21	四肢外傷、　　皮膚・軟部組織外傷	四肢外傷・皮膚軟部組織外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。 同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
22	小児・高齢者・妊婦の外傷、	小児・高齢者・妊婦の外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
23	まとめ・試験	まとめと終講義試験

科目名	特殊外傷(熱傷電撃症化学損傷・異物縊頸刺咬傷)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Burn・Foreign Body, Hanging, Sting & Bite			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	4

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	異物縊頸刺咬傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。 熱傷電撃症化学損傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。
到達目標	異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。 熱傷電撃症化学損傷異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	異物・縊頸・刺咬傷１	気道異物・消化管異物　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
2	異物・縊頸・刺咬傷２	耳目鼻性器の異物・縊頸　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	異物・縊頸・刺咬傷３	哺乳類・爬虫類による咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	異物・縊頸・刺咬傷４	節足動物・海洋生物による刺咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	熱傷電撃症化学損傷１	熱傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
6	熱傷電撃症化学損傷２	化学損傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
7	熱傷電撃症化学損傷３	電撃症・雷撃症　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
8	特殊外傷	試　　験

科目名	環境障害・急性中毒学(環境障害)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Environmental Diseases			総時間数	12	単　位	急性中毒学と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①各傷病について原因と病態生理を理解する。 ②各傷病について適切に判断して処置できる。 ③必要な診療を理解し、適切な医療機関に救急搬送できる。

準備学習 時間外学習	解剖･生理など既習の関連分野を復習する。　テキストの用語について調べておく。受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版　救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	熱中症	疫学、病態生理
2	熱中症	観察と対応
3	偶発性低体温症 凍傷	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
4	溺水 減圧障害	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
5	高山病 酸素欠乏症 紫外線障害	発症機序と病態生理、観察と対応
6	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	環境障害・急性中毒学(急性中毒学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Poisoning			総時間数	12	単　位	環境障害と合わせて1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月	時　限	3.4

担当教員	中尾　隆美	実務者経験	医師、大学病院で救急医療に携わる

学習内容	中毒の病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置、搬送方法等を学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な　急性中毒について理解し、適切な対応について説明できる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	中毒総論	定義、疫学、分類、中毒物質 吸収･代謝･排泄、中毒作用、中毒の判断
2	中毒総論	中毒物質の推定、安全確保 中毒物質等の無保存、緊急度･重症度の判断 医療機関での診療、中毒情報センター
3	中毒各論	医薬品中毒、乱用薬物、農薬中毒
4	中毒各論	工業用品中毒 ガス中毒
5	中毒各論	急性エタノール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒 乱用薬物、現場対応と搬送
6	まとめと試験	

科目名	シミュレーション実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	316	単　位	7
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	1･2･3･4

担当教員	喜代平　要一 金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	基本を応用し、現場活動を学ぶ。
到達目標	外傷処置、特定行為の実習を学び、想定訓練に活かせる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第10版　　出版社（へるす出版）　、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	JPTEC、救急救命処置Ⅱはテストを実施する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
2	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
3	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
4	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
5	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション　窒息、外傷、意識障害等　グループ演習
6	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション　窒息、外傷、意識障害等　グループ演習
7	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション　窒息、外傷、意識障害等　グループ演習
8	1年実習 復習	脳梗塞の種類と病態、前駆症状など復習想定患者対応シミュレーション　(3事例　3グループ)
9	気道の確保 声門上ディバイス	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
10	気道の確保 声門上ディバイス	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
11	声門上ディバ イスによる対応	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
12	声門上ディバ イスによる対応	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
13	声門上ディバ イスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする
14	声門上ディバ イスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする
15	窒息患者(声門上ディバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下･硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
16	窒息患者(声門上ディバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下･硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
17	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習

18	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
19	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
20	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
21	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
22	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
23	窒息患者(声門上ディバイス使用)	スピードを求めず確実性。
24	窒息患者(声門上ディバイス使用)	スピードを求めず確実性。
25	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
26	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
27	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
28	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
29	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
30	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
31	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
32	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
33	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
34	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
35	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
36	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
37	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
38	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
39	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
40	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
41	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
42	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
43	気管挿管	気管挿管講義
44	気管挿管	気管挿管講義
45	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
46	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
47	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル

48	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
49	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
50	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
51	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
52	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
53	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
54	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
55	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
56	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
57	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
58	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
59	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
60	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
61	気管挿管	気管挿管実技
62	気管挿管	気管挿管実技
63	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
64	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
65	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
66	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
67	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
68	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
69	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順　配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
70	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順　配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
71	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
72	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
73	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
74	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
75	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
76	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
77	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練

78	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
79	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
80	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
81	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
82	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
83	徽章授与式演習	各グループで演習
84	徽章授与式演習	各グループで演習
85	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学（9時から11時）
86	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学（9時から11時）
87	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
88	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
89	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
90	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
91	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
92	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
93	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
94	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
95	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
96	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
97	特定行為	静脈路確保実技テスト
98	特定行為	静脈路確保実技テスト
99	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
100	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
101	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
102	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
103	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
104	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
105	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
106	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
107	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡

108	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
109	気管挿管	気管挿管実技、試験
110	気管挿管	気管挿管実技、試験
111	徽章授与式 演習	淀川河川敷にて礼式訓練
112	徽章授与式 演習	淀川河川敷にて礼式訓練
113	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
114	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
115	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
116	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
117	演習	徽章授与式訓練
118	演習	徽章授与式訓練
119	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
120	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
121	基礎技術 復習	ストレチャーの扱いバイタルサイン測定（脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧）
122	基礎技術 復習	ストレチャーの扱いバイタルサイン測定（脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧）
123	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
124	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
125	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
126	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
127	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
128	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
129	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
130	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
131	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
132	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
133	POT	バイタル～病態を読み取る
134	POT	バイタル～病態を読み取る
135	POT	バイタル～病態を読み取る
136	POT	バイタル～病態を読み取る
137	解剖実習	大阪大学へ解剖実習

138	実習前研修	オリエンテーション、記録（チェックリスト・評価表・薬剤投与記録・実習記録）
139	実習前研修	各病院の説明(前年度同施設実習生代表が入ってのグループミーティング）
140	実習前研修	輸液について、ドレーン管理について
141	実習前研修	患者搬入・初療室の流れについて、初療室・ICU の１日の流れについて、　重症患者の観察、救急での検査・器材・薬品、救急カートなど
142	実習前研修	実習の計画(初日の実習目標・実習項目を挙げ、それについての予習）記録について考察の考え方
143	実習前研修	十二誘導心電図の測定法
144	実習前研修	気管内吸引・気管チューブの固定、カフ圧の理解・測定など
145	実習前研修	フィジカルアセスメント
146	実習前研修	静脈ルート（血管の選択、皮膚消毒、穿刺、固定法など)血糖測定 静脈ルート(ルート作成、三方活栓の使用法・エピネフリン・ブドウ糖溶液の投与法など）
147	実習前研修	感染予防（病院の清潔管理・清潔操作・　手洗い方法、手指消毒法、）　時間が余れば、ガウンテクニック・グローブ着脱など
148	実習前研修	車椅子の使用法、ベットでの患者搬送　（時間があれば、患者移動法、シーツ交換、清拭、体位交換）
149	実習前研修	集中治療における酸素療法の選択（高、低流量システム）
150	実習前研修	〃
151	実習前研修	血液浄化療法の特徴、実際の使用法について
152	実習前研修	〃
153	実習前研修	体外循環療法の特徴、実際の使用法について
154	実習前研修	〃
155	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
156	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
157	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
158	病院実習レポート	病院実習のレポート作成

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	46	単　位	1
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	1･2･3･4

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	搬送法	メインストレチャーの曳行
2	搬送法	メインストレチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
6	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
7	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
8	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
9	観察	救急自動車内での観察
10	観察	救急自動車内での観察
11	処置	救急自動車内での処置
12	処置	救急自動車内での処置
13	処置	救急自動車内での処置
14	処置	救急自動車内での処置
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

18	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
19	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
20	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
21	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
22	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
23	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション